

大学改革支援・学位授与機構  
令和7年度第4回大学等の質保証人材育成セミナー  
「マイクロクレデンシャルは高等教育をどう変えるか」

# マイクロクレデンシャルの 学位プログラムへの効果と継続学習の促進

2026年 3月4日

サイバー大学 学長 川原 洋

# 自己紹介



東京都出身

Cal Poly カリフォルニア州立工科大学（フンボルト校）理学部 物理学科卒業 B.S.  
MIT マサチューセッツ工科大学 工学部 機械工学科（海洋工学） 博士課程修了 Sc.D.

1984年 学位取得後、多国籍資源探査企業にて地震探査のR&Dに従事。

1992年 よりキャリアの場をIT業界に移し、NSSOL、IBMを経て、

2000年 よりソフトバンクにて、グループ内や海外JVによる新規事業のCXOを歴任。

2007年 サイバー大学創立時にIT総合学部専任教授着任、

IT分野の専門科目を担当する傍ら、各種教育システムの開発に従事。

2012年 学長就任、

2019年 代表取締役就任、現在に至る。

一般社団法人 日本1EdTEch協会 理事

一般社団法人 日本マイクロクレデンシャル機構 理事

三菱総研DCS 株式会社 社外取締役

# サイバー大学とは

- 2007年4月 福岡市のアジアビジネス特区申請により認可・開学（2026年4月で20年目を迎えます）
- すべての授業や試験をオンラインで受けられる、文部科学省が認可した日本初の4年制大学
- ソフトバンクグループ（株）100%出資による株式会社立大学
- 高度IT人材（ビジネスのわかるITエンジニア・ITがわかるビジネスパーソン）の育成を教育目的に掲げる
- 在学生数 3,726名（2025/5/1付）[収容定員4,000名]
- 統合型教育プラットフォームCloudCampusを学内で開発・運用し、230余の企業・大学等へも提供
- THE(Times Higher Education)による世界Online Learning Rankings 2024にて、総合評価Bronze、Outcomes（履修継続率・学習効果等の評価分野）では世界ランキング5位<sup>(1)</sup>
- 一般社団法人 オープンバッジ・ネットワーク主催 第2回オープンバッジ大賞にて、マイクロクレデンシャルの修了証として適用したことに対し大賞受賞<sup>(2)</sup>

(1) <https://www.timeshighereducation.com/world-university-rankings/online-learning-rankings-2024-results-announced>

(2) [https://www.openbadge.or.jp/award/index\\_2024.html](https://www.openbadge.or.jp/award/index_2024.html)

# サイバー大学在校生のプロフィール

2025/5/1付

## 在学生の職業分布



社会人学生 **49.8%**



専業学生 **42.5%**

主婦・  
主夫等  
7.7%

25歳未満が約60%

年代が上がるに従って  
男女比は1:1に

### 社会人学生職業内訳



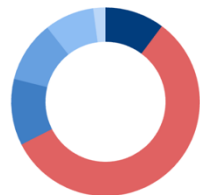
### 男女別



男性 **71.5%** 女性 **28.5%**

働く女性が多数在籍  
多様な視点と創造性を育む環境

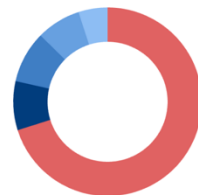
### 年代別



10代 **10.2%** 20代 **57.3%**  
30代 **11.4%** 40代 **10.5%**  
50代 **8.5%** 60代~ **2.1%**

20代を中心に  
幅広い年齢層の学生が在籍

### 最終学歴別



高校卒業 **70.2%**  
大学 / 短大退学 **8.4%**  
大学 / 大学院 / 短大卒業  
※高校専攻科含む **8.9%**  
専門学校 / 高専卒業 **7.6%**  
その他 **5.0%**

高校卒業をはじめ、他大学等を卒業・  
退学して本学に編入学する人も多い



No.1 首都圏 **45.7%**  
No.2 近畿 **13.9%**  
No.3 九州・沖縄 **12.6%**

東海	11.8%	中国	3.4%
北海道・東北	6.1%	四国	1.6%
北信越	3.8%	国外※	1.1%

# アウトライン

1. サイバー大学におけるマイクロクレデンシャルの位置付け
2. 学位プログラムへのマイクロクレデンシャル導入の背景と推進戦略
3. 在校生の学習意欲向上と卒業生の継続学習への効果

# アウトライン

1. サイバー大学におけるマイクロクレデンシャルの位置付け
2. 学位プログラムへのマイクロクレデンシャル導入の背景と推進戦略
3. 在校生の学習意欲向上と卒業生の継続学習への効果

# サイバー大学におけるマイクロクレデンシャルの定義<sup>(1)</sup>

1. 学習者が知っていること、理解していること、またはできることを証明するものであり、対象が重点化された**学修成果の記録**であること
2. シラバス等において明確に定義された**基準に基づいた評価**を行い、本学の学長が交付するものであること
3. **単独で価値**を持ち、さらに**他のマイクロクレデンシャル**または**学位の一部**を構成したり、**補完**できること（本学以外における既修得の単位認定による取得要件の充足も含める）
4. **質保証の基準**<sup>(2)</sup>を満たすものであること

(1) UNESCOならびに大学の国際化促進フォーラム、Japan Virtual Campus運営委員会（JV-Campus）、一般社団法人日本オープンオンライン教育推進協議会（JMOOC）の共同により設置されたマイクロクレデンシャルに関する共同ワーキンググループにおける検討内容に基づく。

(2) サイバー大学内外部質保証・共同ワーキンググループによる「マイクロクレデンシャルに関するフレームワーク」への準拠・1EdTech Consortium Inc.が定める技術標準規格“Open Badges”など

# サイバー大学におけるマイクロクレデンシャルの対象/対象外

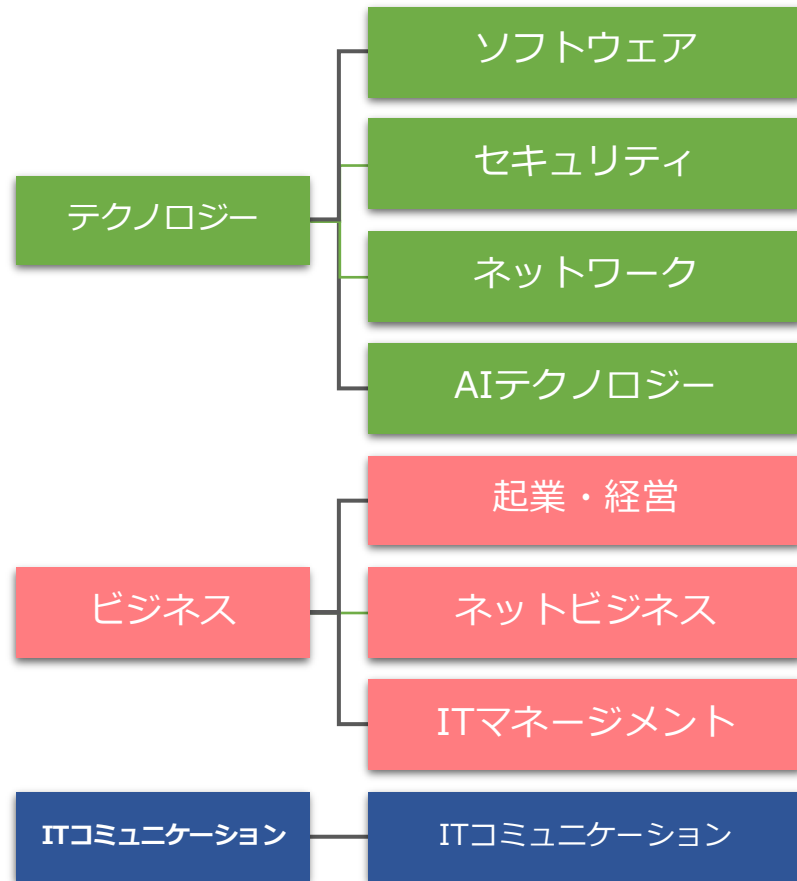
対象： 本学または本学と共同により実施される学修成果の評価が行われた教育プログラムや科目の一部

対象外： 本学が質を担保する評価の実態を把握できない講座やセミナーへの参加、および学位そのものの修了

# アウトライン

1. サイバー大学におけるマイクロクレデンシャルの位置付け
2. 学位プログラムへのマイクロクレデンシャル導入の背景と推進戦略
3. 在校生の学習意欲向上と卒業生の継続学習への効果

# 2023年度まで運用されていたコース・プログラム制



- IT総合学部専門科目カリキュラムは、3コース・8プログラムより構成
- 各プログラムには必修科目・履修推奨科目が指定されている
- 学生は3年次へ進むまでに卒業研究にいたるプログラムを選択
- プログラム別に卒業研究科目\*（4年次配当）を設置
- 専門科目教員は担当ゼミの履修前提科目を指定する

\*担当教員ごとに設置されたゼミナール

# コース・プログラム（CP）制の課題

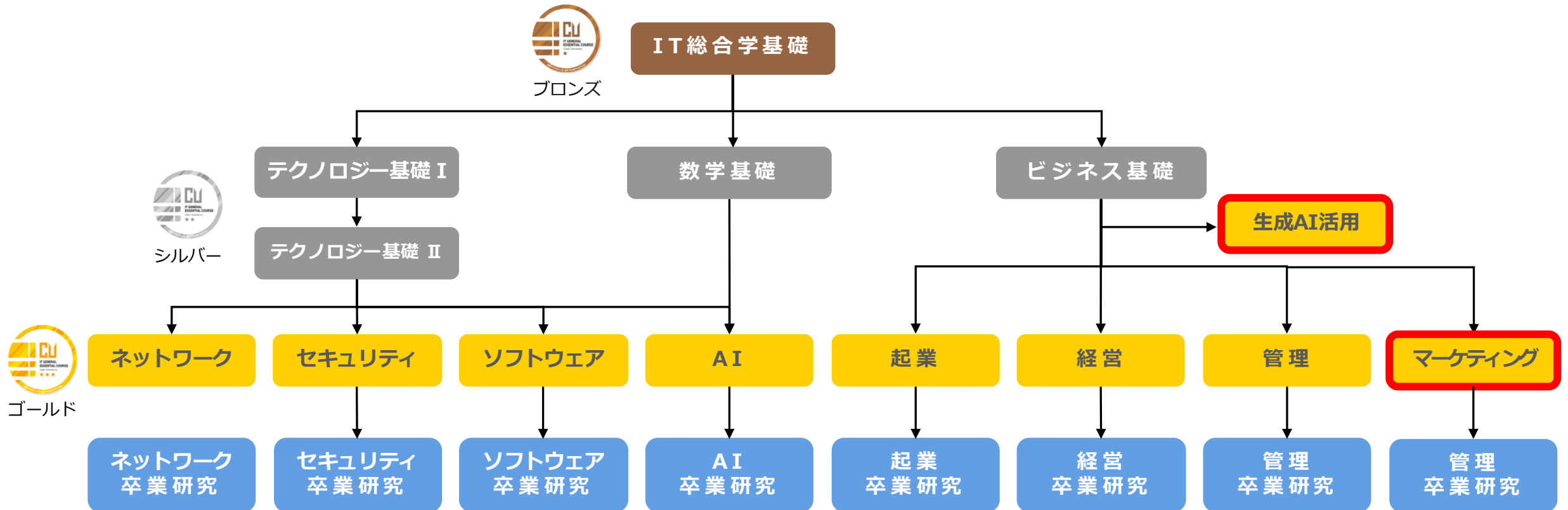
- CP制では、通常2年次までに特定のプログラムを決定するため、卒業までの履修計画が明確になった。
- しかし、3年次以降の応用科目は、多様な専門分野での履修を可能にするため、テーマ別卒業研究への実質的な必修科目と履修指導しながらも、推奨科目として位置づけていた。
- そのため、学生はかなりの自由度で専門科目を選択し、卒業単位を取得するに至った。
- その結果、専門分野ごとの学生の履修科目が分散し、卒業研究（ゼミ）の履修前提が緩和され、本来狙うべき教育効果が十分に発揮されない可能性があった。
- 同様に、在学中に進路変更をした学生が重要な専門科目の履修を省略し、不十分な準備のまま卒業研究に取り組むケースも見受けられた。
- 結果として、補習授業の実施や卒業研究テーマの範囲を調整する必要もあった。

# マイクロクレデンシャル化の教育目的

- 卒業研究に至る科目履修体系を基礎から上級まで専門分野別に科目をグループ化し、これらを網羅的に履修させることで、専門分野における学力の強化を図る。
- 学修分野別に履修証明証をオープンバッジで発行することで、専門科目を必修化するのではなく、バッジ獲得をテーマ別の卒業研究につながる学習インセンティブとする。
- 専門教育を強化する一方で、一人ひとりの学生に寄り添った高度な、かつ多様性に富んだ学習体験も推奨する。
- 既修内容の更新や学修領域の拡張による継続的学修へと誘導する。

# マイクロクレデンシャル体系とオープンバッジの種類（専門分野）

2025年度春学期より生成AI活用(Gold)・デジタルマーケティング(Gold) をビジネス系MCとして設置



<https://www.cyber-u.ac.jp/information/y241001.html>

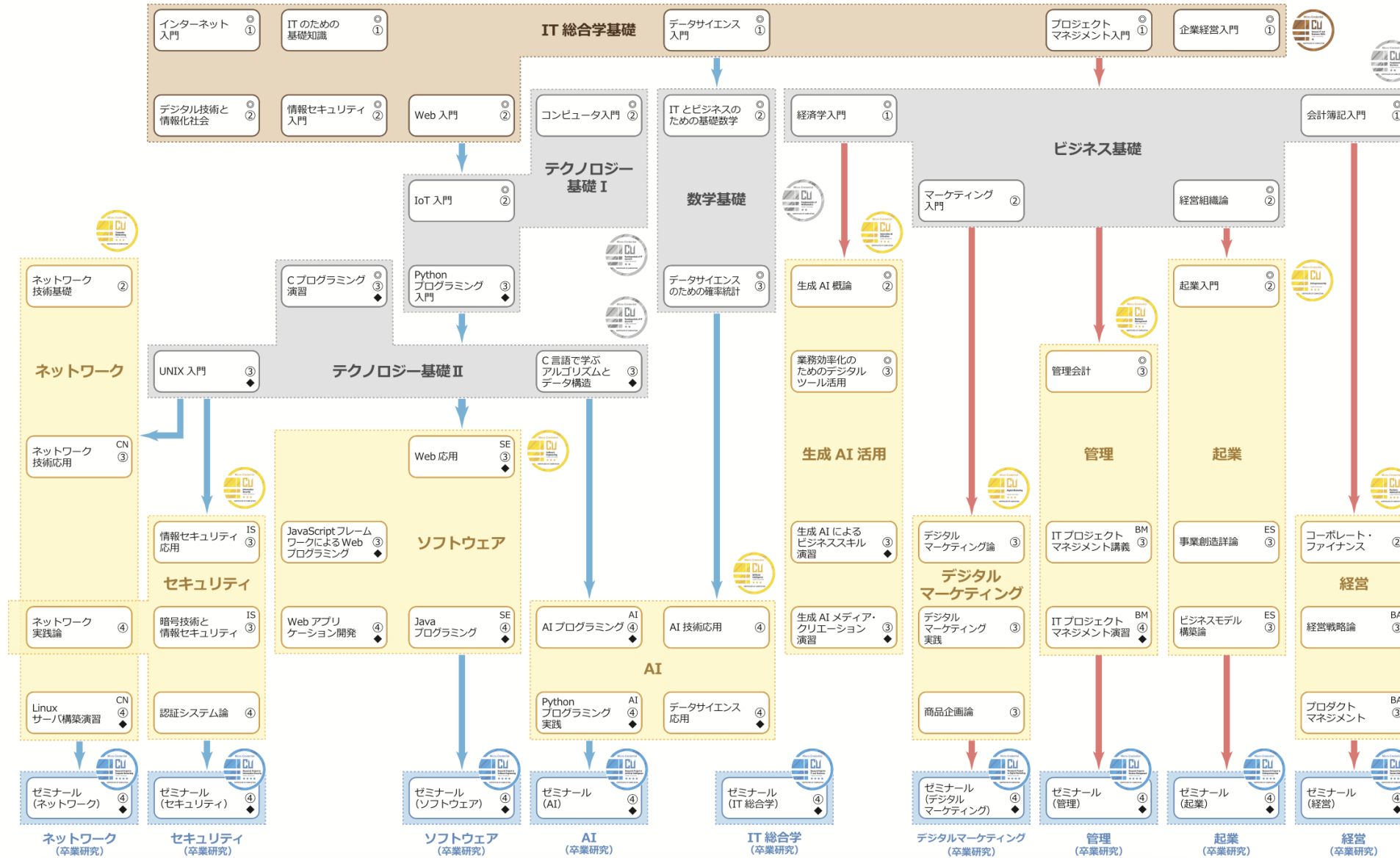
# マイクロクレデンシャルによる在校生の履修戦略

- 必修のIT総合学基礎（ブロンズ）の取得がすべての履修モデルの起点
- テクノロジー基礎はIとIIの二段階（シルバー）で配置し、ビジネス系へ進む学生でもテクノロジー基礎I（シルバー）レベルの取得を容易にした
- AIだけは数学の基礎をさらに積んだ上でゴールドへ
- 卒業研究科目（プラチナは一分野のみ）に至る履修経路を専攻(major)とするならば、並行して他の学修分野の上位MC（ゴールド）の（複数）獲得を副専攻(minor)とする
- 教養科目や語学科目の分野においてもソフトスキル系科目を自由に履修し、最終的にアカデミックライティングやコミュニケーションなどの教養シルバーバッジを取得。



テクノロジー系

ビジネス系



当該バッジの取得には、すべての下位バッジの取得が必須

科目の履修体系がバッジ取得体系を優先する

学生はバッジを任意で取得

# マイクロクレデンシャル別科目群

バッジ取得には指定科目すべての単位修得が必要



ブロンズ

IT総合学基礎 (16)	
CS101	ITのための基礎知識
CS102	インターネット入門
CS103	データサイエンス入門
CS153	Web入門
CS154	情報セキュリティ入門
CS156	デジタル技術と情報化社会
PM101	プロジェクトマネジメント入門
BA101	企業経営入門



数理・データサイエンス・AI  
教育プログラム認定制度  
リテラシーレベル



シルバー

テクノロジー基礎 I (6)	
CS151	コンピュータ入門
CS201	IoT入門
CS252E	Pythonプログラミング入門

テクノロジー基礎 II (6)	
CS203E	Cプログラミング演習
CS251E	UNIX入門
CS253E	C言語で学ぶアルゴリズムとデータ構造

ビジネス基礎 (8)	
ECON101	経済学入門
BA102	会計簿記入門
BA151	マーケティング入門
BA152	経営組織論

数学基礎 (4)	
MATH201	ITとビジネスのための基礎数学
MATH251	データサイエンスのための確率統計

\* ( ) 内の数字は合計単位数

# マイクロクレデンシャル別科目群



ゴールド

## ネットワーク (8)

CS202	ネットワーク技術基礎
CS302	ネットワーク技術応用
CS307	ネットワーク実践論*
CS360E	Linuxサーバ構築演習

## セキュリティ (8)

CS304	情報セキュリティ応用
CS305	暗号技術と情報セキュリティ
CS307	ネットワーク実践論*
CS361	認証システム論

## ソフトウェア (8)

CS303E	Web応用
CS351E	Javaプログラミング
CS358E	Webアプリケーション開発
CS359E	JavaScriptフレームワークによるWebプログラミング

## AI (8)

CS352E	Pythonプログラミング実践
CS353	AIアルゴリズム
CS354E	AIプログラミング
CS356E	データサイエンス応用

## 起業 (6)

BA201	起業入門
BA301	事業創造詳論
BA354	ビジネスモデル構築論

## 経営 (6)

BA302	コーポレート・ファイナンス
BA304	経営戦略論
BA355	プロダクトマネジメント

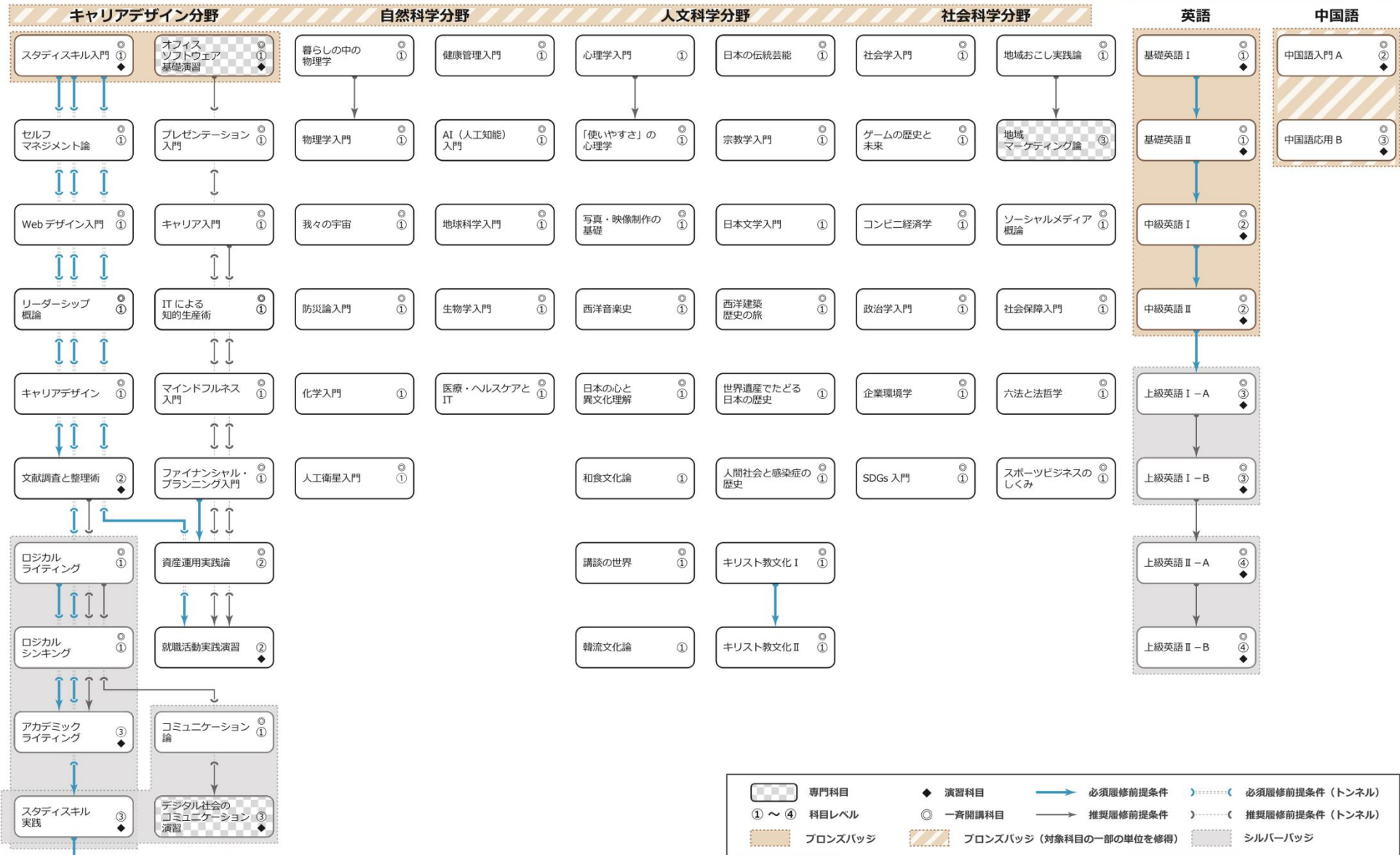
## 管理 (6)

BA202	管理会計
PM301	ITプロジェクトマネジメント講義
PM351E	ITプロジェクトマネジメント演習

【MC カリキュラム】2026 年度春学期 教養・外国語科目 科目履修体系図（マイクロレデンシャル取得要件） [2025 年 11 月現在]

教養科目（1～3 年次配当） 指定の無い限り、教養科目は 1 年次から受講可能

外国語科目（1～3 年次配当）



一部の必修科目を除き、**教養科目は自由選択**

ただし、**体系的な学習**が効果的な科目群に対してはMC獲得を推奨

教養科目 (1~3年次配当) 指定の無い限り、教養科目は1年次から受講可能

外国語科目 (1~3年次配当)



# オープンバッジ属性情報表示例（専門分野）



## AI/Artificial Intelligence Ver. 1

発行者 サイバー大学 Cyber University

### 説明

このバッジの保有者はサイバー大学の教育プログラム「AI」を修了したことを証明します。This badge certifies that the holder has completed "Artificial Intelligence" at the Cyber University in Japan.

### 取得条件

### 学修成果 Learning outcomes

「IT総合学基礎」、「テクノロジー基礎Ⅰ」、「テクノロジー基礎Ⅱ」、「数学基礎」バッジのスキルに加え、以下の知識、スキルを身に付けている。(ITSSレベル2相当)

- 人工知能（AI）に関する基本的な概念および利活用に必要な知識を身につけている
- 深層学習を含めた基本的な機械学習手法に関する知識を身に付け、AIの利活用やデータ分析のための適切なアルゴリズムを選

もっと見る ▼

### スキル

データサイエンス

基本情報技術者試験

人工知能

AI

データ分析

機械学習

Python

R

データエンジニアリング

IoT

# サイバー大学オープンバッジのメタデータ例

オープンバッジ発行後は一切の編集や改ざんは不可能

- |              |                                |
|--------------|--------------------------------|
| • 学修成果       | Learning outcomes              |
| • 授業の方法      | Form of participation          |
| • 学習量（総学習時間） | Learner Effort                 |
| • 評価の方法      | Type of assessment             |
| • 質保証        | Type of quality assurance      |
| • レベル        | Level                          |
| • 証明書        | Certification                  |
| • 単位/その他の認定  | Credit/ Other Recognition      |
| • （受講）前提条件   | Prerequisites needed to enroll |
| • 積み上げ可能性    | Stackability                   |

# 学位プログラムとマイクロクレデンシャル併用の考え方

- 単位認定は**固定的・確定的**な学修歴の証明
- 卒業単位認定後に授与される**学位も恒久的**な記録
- マイクロクレデンシャルの対象となる**小規模かつ比較的短期間**に履修が完了する**学修内容**は、**卒業後も（あるいは在学中でも）更新される可能性が高い**
- 従って、マイクロクレデンシャルは**動的な学修歴の証明**（マイクロディグリーに**あらず**）
- オープンバッジは学修履歴のデジタル管理ツールであり、科目編纂や更新に伴うマイクロクレデンシャルの**バージョンと発行時期**を明記

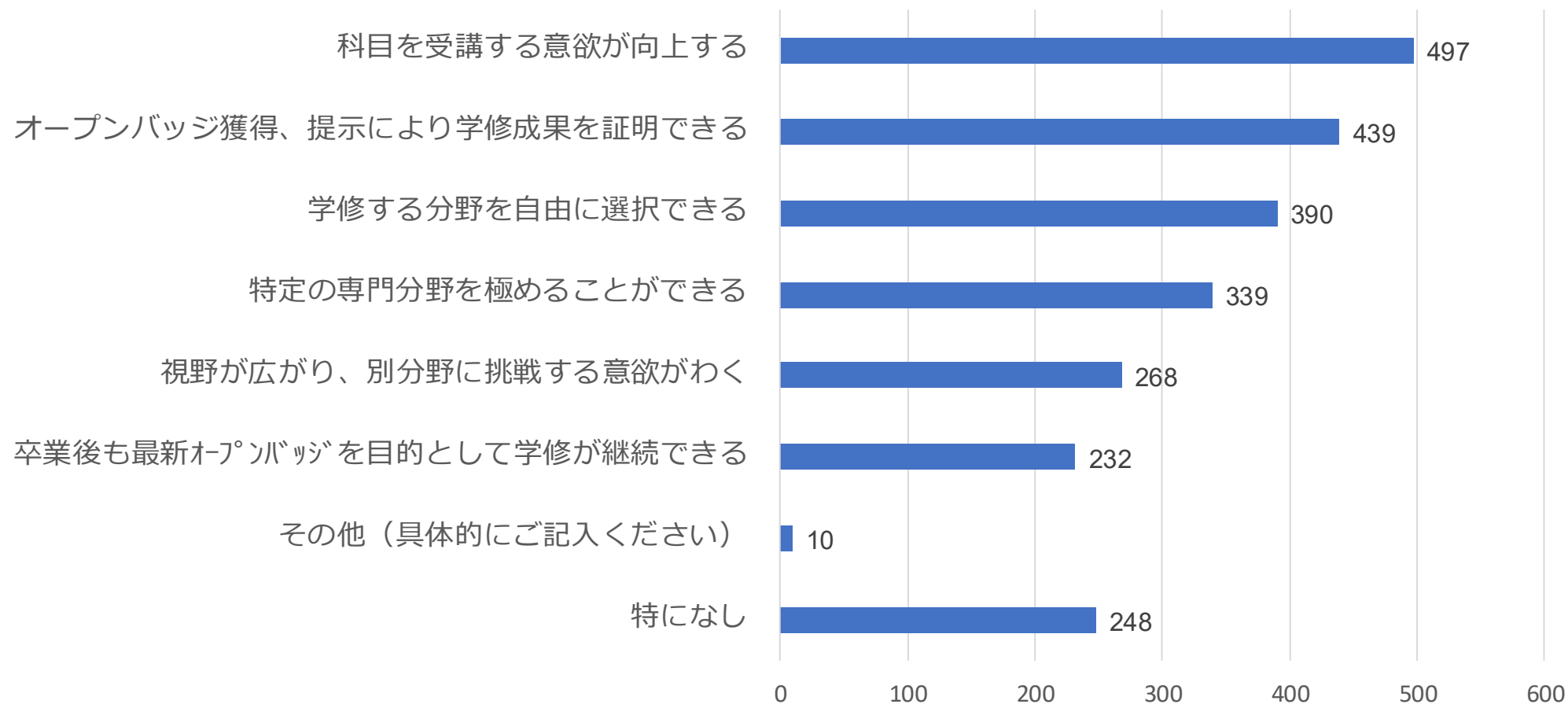
# アウトライン

1. サイバー大学におけるマイクロクレデンシャルの位置付け
2. 学位プログラムへのマイクロクレデンシャル導入の背景と推進戦略
3. 在校生の学習意欲向上と卒業生の継続学習への効果

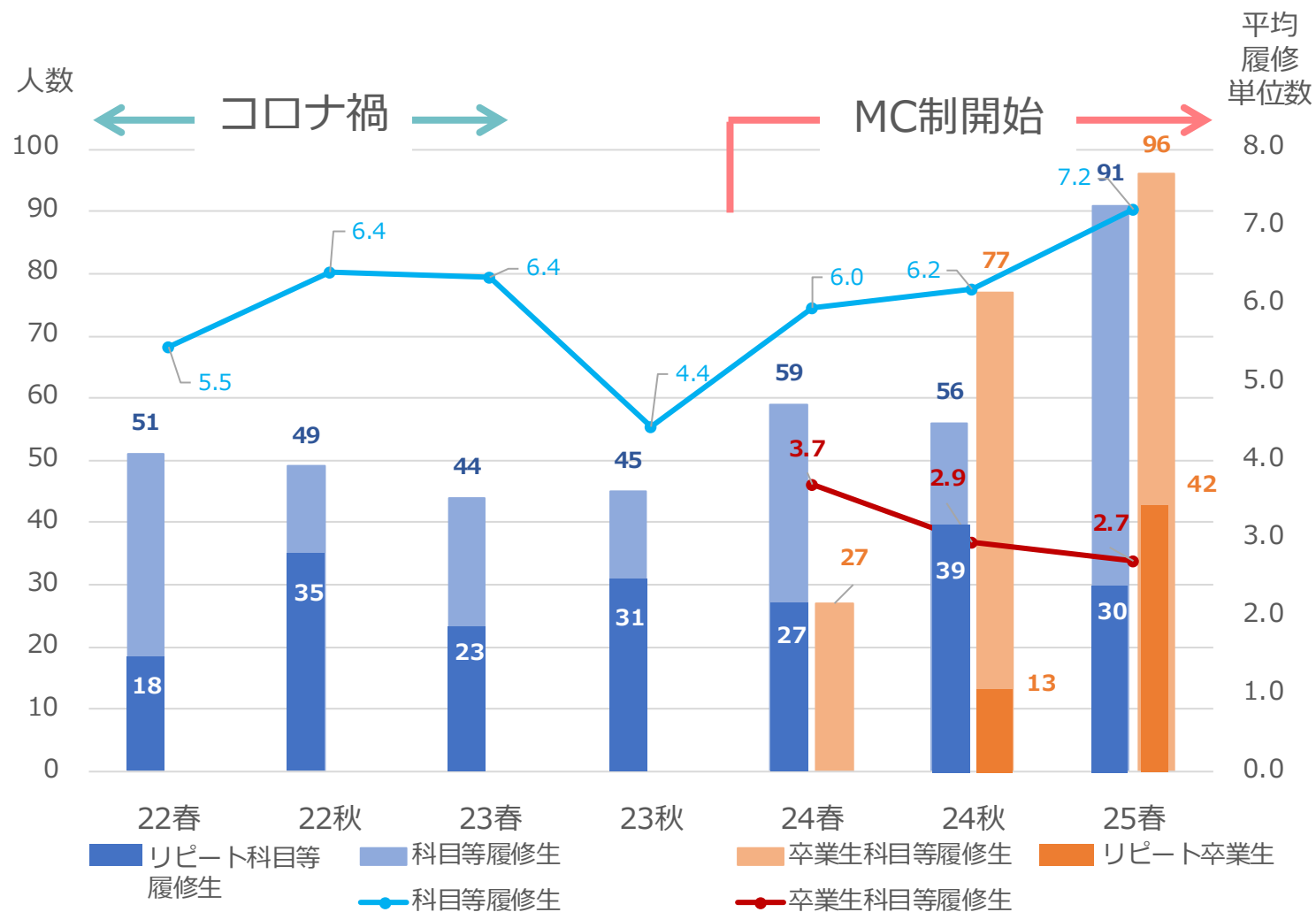
# 在校生のマイクロクレデンシャルへの期待

2026年1月実施：学生アンケート調査結果（一部）

複数回答可：n=1067



# 一般科目等履修生・卒業生による履修者数と履修単位数の推移



- オープンバッジ獲得を目的に、在学中に未履修だった科目の単位修得のために再入学した卒業生が急増。
- (一般) 科目等履修生もオープンバッジ取得目的のためか、入学者数も平均履修単位数も増加。
- 2024年度秋学期には卒業生の再入学者数が一般科目等履修生数を超える。
- 卒業生の学期をまたがる継続学習率も増加傾向にある。

# まとめ

- 修得単位や学位が静的な履修証明であるのに対し、マイクロクレデンシャルは、知識・スキルの鮮度を保証する動的な履修証明として位置付けられる。
- MC制は在学期間内外にかかわらず、専門学修の強化と学修分野の多様性の両立と継続学習に貢献する。
- オープンバッジの獲得は在校生の学習インセンティブとなっているだけでなく、バッジのメタデータは外部閲覧者にとってもバッジ保持者の有効な属性情報となる。
- MCの更新や新設は、一般科目等履修生や卒業後の継続学習にも効果的である。

# さいごに...

マイクロクレデンシャルとは、誰のために、どのようにあるべきなのでしょうか？

大学教育におけるMCのあり方について追求していくことは、産業界からのフィードバックを真摯に受け止めて、受益者である学生の大学教育への期待に応えていくことにほかありません。

ご清聴ありがとうございました

A SoftBank Group Company

 **Cyber University**

[hiroshi\\_kawahara@cyber-u.ac.jp](mailto:hiroshi_kawahara@cyber-u.ac.jp)